



# 南が丘通信

## 教育目標

進んで学び深く考え、積極的に行動する人  
 思いやりの心を持ち、互いに協力する人  
 心身ともに健康で、創造力のある人

練馬区立南が丘中学校

校長 宮田 健史

〒177-0035

練馬区南田中 4-8-23

TEL 03-3904-5782

URL <https://www.nerima-tky.ed.jp/minamigaoka-j/>

令和4年度 特別号 令和5年3月15日発行



## 令和4年度 学校評価アンケート結果報告及び自己評価

1. 実施方法 Google forms による意識調査
2. 実施時期 令和4年11月～12月
3. 調査人数 生徒251名(87.2%)、保護者名184名(63.9%)、教職員20名(90.9%)  
評議員3名(37.5%)
4. 調査結果 肯定的な意見を抽出(4段階中「そう思う」「やや思う」の割合)

	質問	生徒	保護者	教職員	評議員
1	生徒は学生生活を楽しんでいる。	83.3	77.2	100.0	100.0
2	生徒を安心して学校に通わせることができる。	90.4	85.3	100.0	100.0
3	授業は1時間の「めあて」が明確になっている。	82.1	77.2	100.0	100.0
	授業の「めあて」が明確になり、学習への意欲が高まった。	74.5	—	—	—
4	一人一人の生徒を大切に、個に応じた学習指導がされている。	77.3	64.7	95.0	100.0
5	読書活動・話し合い活動・発表活動など言語活動を重視した授業が進められている。	86.9	81.5	95.0	100.0
	言語活動を重視した授業を通じて、表現力が高まった。	80.5	—	—	—
6	生徒用タブレットなどICT機器を活用した授業が進められている。	83.7	79.9	95.0	100.0
	ICT機器を活用した授業を通じて、自己学習能力が深まった。	72.5	—	—	—
7	家庭と協力し、家庭学習習慣定着の取組が進められている。	66.9	50.5	80.8	100.0
8	少人数習熟度別学習(英語・数学)により、意欲が学力を高める取り組みが進められている。	88.0	73.9	100.0	100.0
9	保健体育科授業を中心に、十分な運動量を確保する取組が進められている。	94.4	77.7	100.0	100.0
10	生徒の学力、能力、努力を適切に評価している。	85.7	72.3	100.0	100.0
11	生徒一人一人が大切にされ、気持ちが考慮された生徒対応が行われている。	79.7	68.5	100.0	100.0
12	生徒が学校生活の決まりを守るよう適切に指導している。	92.4	87.5	100.0	100.0
13	生徒が「あじみこし」(あ:挨拶、じ:時間、み:身だしなみ、こ:言葉遣い、し:姿勢)の大切さを理解できるような教育が行われている。	85.7	87.0	100.0	100.0
14	いじめ未然防止のための生活指導や教育相談、環境整備が行われている。	83.3	75.5	100.0	100.0
15	家庭と協力し、インターネット・SNSトラブルの未然防止に努めている。	80.5	71.2	95.0	100.0
16	将来の生き方を考えさせたり、体験させたりするキャリア教育が行われている。	84.1	63.0	95.0	100.0
17	進路希望調査・三者面談・キャリアパスポートなどを通じて家庭と連携し、適切な進路指導が行われている。	85.3	76.6	95.0	100.0
18	運動会や文化発表会などの学校行事が充実しており、生徒が中心となって活動している。	94.4	88.6	95.0	100.0
19	生徒会・委員会活動などの生徒の主体的活動を促す教育が行われている。	93.6	88.0	100.0	100.0
20	部活動の指導が充実しており、適切に運営がなされている。	86.5	70.7	85.0	100.0
21	特別支援教育に力を入れ、交流や共同学習を進めている。	78.5	73.9	75.0	100.0
22	授業体験や行事を通して南が丘小・南田中小と連携し、小中のスムーズな接続を推進している。	73.3	81.5	95.0	100.0
23	セーフティ教室、避難訓練、不審者対策などの安全指導の充実に取り組んでいる。	91.2	87.5	100.0	100.0

24	掃除が行き届き、施設・設備を含めてよりよい環境の整備に取り組んでいる。	91.6	90.2	90.0	100.0
25	給食の献立は工夫され、栄養のバランスが良く、安全である。	94.8	89.1	100.0	100.0
26	感染症拡大防止対策に基づき適切に教育活動が運営されている。	94.0	92.4	95.0	100.0
27	学校行事や授業公開は保護者・地域が参加しやすいものになっている。	—	84.8	95.0	66.7
28	電話や学校を訪問した際の対応は親切で好感がもてる。	—	88.6	100.0	100.0
29	保護者・地域に対して、教育内容等を学校だよりやホームページ等で積極的に発信している。	—	86.4	100.0	100.0
30	保護者・地域の意見を聞き、連携しながら学校を運営している。	—	79.3	100.0	66.7

## 5. 自己評価結果

### (1) 確かな学力の定着・体力の向上につながる授業の実施

- ①教師が「何を教えるか」ではなく、生徒が「何ができるようになるか」を重視した、「めあて」の提示を行った。授業で育成したい力をより具体的に示すことで、将来への見通しをもたせ、さらに生徒の学習意欲を高めることにつなげていく。
- ②習熟度別少人数指導、教え合い学び合い活動、ICT機器を活用した視覚的な教材の提示、適応推進委員会による学習の手立ての検討などを推進し、個に応じた学習指導を行っている。さらに個別最適な学習（指導の個別化・学習の個性化）を推進し、生徒の主体的な態度を育成していく。保護者の肯定的な評価が65%と低い点については、学校として対応できる範囲を明確にするとともに、積極的な発信を保護者会や学校だよりを通して改善を図っていく。
- ③個人で思考した内容をグループで検討したり、生徒用タブレットを使用して発表・意見交換したりする、対話的・協働的な学習を全教育活動を通して推進することができた。文化発表会でも素晴らしい発表活動を行うことができた。生徒の80%が考える力、表現する力の高まったと感じている。
- ④生徒用タブレットを活用した、新聞や発表資料作成等では、書くことが苦手な生徒の意欲や発表内容の向上が見られた。発表活動の動画撮影を通して、自己の課題を改善することにつなげることができた。文化発表会や授業公開、生徒作品を保護者に観覧いただけたことにより、ICT活用に対しての保護者理解が進んだ。
- ⑤長期休業期間の学習時間の設定や明けテストの実施に加え、全教科の「学習の仕方」をまとめた冊子を作成・配布した。次年度は、さらに改善をしたものを作成・配布する予定である。家庭学習の取組については、保護者の肯定的な評価が50%となった。取組についての情報発信数を増やすとともに、保護者会・三者面談で保護者との共通認識を深め、定着を図っていく。
- ⑥熟度別少人数指導については、「自分のペースで学習を進めることができる」「丁寧に説明してもらえる」などの生徒の肯定的な意見が多く、「意欲の高まり」88%、「学力の高まり」82%も感じている。
- ⑦毎時間のランニングやサーキットトレーニングなど運動量を確保する取組を保健体育科で推進していることもあり、体力・運動能力調査のスコアは東京都平均を上回っている。引き続き、全国平均を目指して改善を進めていく。
- ⑧不適切な評価が起こらないよう、年度当初に評価計画を示すとともに、毎学期校内での相互点検も行っている。生徒85%以上が適切に評価されていると感じている。「指導と評価の一体化」をさらに推進するために、授業での振り返りや単元テスト・定期考査などの分析を進め、授業改善を進めていく。

### (2) 規範意識の高い、心豊かな生徒の育成

- ①年間3回の生活アンケートや教育相談を通し、生徒の困り感に全教員体制で対応している。問題発生時の保護者連絡も迅速に行っている。しかし「大切にされている」と感じている生徒が昨年より8%低下しており、保護者の肯定的な評価も68%となっている。学校・学級への所属間や自己有用感を感じられる学級活動・行事運営をさらに進めていく。
- ②生徒や保護者の意見を反映し、服装・髪型などについての学校生活のきまりを改訂した。生徒も理解し、協力して守ることができている。生徒・保護者の肯定的評価も10%以上上昇した。
- ③「あじみこし」の校内での取組は素晴らしく、保護者や来校者からも高い評価を受けている。さらに、社会生活の中でも発揮できるよう、行事等で外出した際に大きなめあてとして、指導の柱に据えて取組を活性化させている。
- ④いじめ対応については、未然防止、早期発見にむけた組織的な対応を行うことができた。アンケートや日々の生徒観察、生徒・保護者からの訴えなどを通して認知した12件も現在は解決している。タブレットを使用したいじめについても、区教委と連携し、素早く対応することができた。
- ⑤4月に情報モラル教室を実施したことで、早い段階で生徒・保護者と正しい使用方法について共通認識を図ることができた。インターネット・SNSトラブルの未然防止に対する肯定的な回答が昨年より8%下落していることから、家庭でのスマートフォンの使用状況等に課題があると考えられる。次年度は家庭との連携をさらに深めて、年間を通じた継続的な指導を行っていく。

⑥不登校生徒に対しては、適応推進委員会にて組織的な対応方法を検討している。放課後登校、家庭訪問、オンライン面談など学校と家庭の関係づくりの強化や、適応指導教室トライ・SSWなどの外部機関との連携に力を入れた。取り組みを強化しているにもかかわらず、不登校生徒が増加しているため、所属感や自己有用感を高める学級活動の展開などにも取り組んでいく。

### (3) 夢や希望を育む進路指導の推進

①3年ぶりに職場体験を実施することができた。またキャリア教育として、生徒会活動や学級活動を通し、自分の役割の自覚させる指導を推進している。しかし保護者の肯定的な評価が63%であったため、3年間を見通した効果的なキャリア教育が実施できるよう、全体計画・年間計画を再構築している。

### (4) 主体的に関わることのできる学校行事、諸活動の実施

①行事を止めることなく学校教育活動を実施することができた。スキー移動教室、合唱コンクールを3年ぶりに実施することができた。95%の生徒が、主体的に行事を運営し、達成感を得ることができたと感じている。

②毎月の生徒会朝礼などを通し、各委員会の取組が積極的に発信されている。また生徒会本部も、生徒会サミットや練馬区生徒会交流会に参加し、他校の取組を意欲的に学んでいる。

③スポーツ庁や文化庁のガイドラインを遵守し、適切に運営している。限られた活動日の中で、男子バスケット部は都大会出場、吹奏楽部はコンクール入賞を果たす活躍をした。野球・サッカー部の部員減少が進み、サッカー部が募集停止となる可能性があるため、魅力を発信するための取組を検討している。

### (5) 特別支援教育・小中一貫教育の推進

①適応推進委員会を中心に、巡回臨床心理士やMSURと連携をとりながら、支援が必要な生徒への対応方法について検討することができた。

②合同行事を通して、互いの良さを伝えあうことができた。交流学习を再開するために、ポッチャを通じた交流を少しずつ進めている。

③小中一貫教育では、小学生による中学校体験も再開することができたことから、生徒の肯定的な評価が16%上昇した。「あじみこし」「言語活動」「異年齢交流」を柱とする取組プログラムも小学校と共同で進めている。

### (6) 安全・健康への配慮

①生徒の素早い判断力と行動力を向上させるため、毎月実践的な避難訓練を実施している。ミサイルに対する危機管理マニュアルを整備し、生徒への指導を進めていく。

②清掃に対して生徒が主体的に取り組み、清潔な環境が整備できている。また、体育館・特別教室の不要物・危険物を長期休業中やクリーン運動の際に廃棄した。転倒防止の安全点検も組織的に点検している。

③給食は、学校栄養士が中心となり、栄養・衛生管理を適切に行うことができた。味もよく、95%の生徒から肯定的な評価を得ている。

④新型コロナウイルス感染症については、養護教諭が中心となり、文科省・区のガイドラインに従って適切な対策をとっている。感染者が急増した際の学級・学年閉鎖も適切に対応することができた。

### (7) 地域に開かれた学校づくり

①運動会・文化発表会もPTAの協力により、全学年の保護者に観覧いただくことができた。地域への学校公開も2学期より再開している。保護者の肯定的な評価は昨年度に比べ20%上昇した。

②教職員の接遇については、88%の保護者より肯定的な評価をいただいている。電話応対に意見をいただくこともあったが、全教職員の共通認識を図り、改善を進めている。

③学校だよりやホームページを活用し、積極的に情報発信を行うことができた。管理職による、授業見学の様子も年3回学校ホームページにて発信した。特に宿泊行事中の情報発信や、文化発表会の動画配信が好評であった。

④保護者・地域の意見をうかがう機会が減少しているが、学校アンケートや保護者会、地域の懇談会などでいただいた意見を学校改善に取り入れて、改善を図っている。

⑤アンケートをGoogle formsを無記名で実施したこと、保護者の負担感や紙の使用量を減少させることができた。しかし回答率が減少したため、連絡方法や実施期間などについて再検討していく。

## 6. 学校評議員より

### (1) 成果

①新型コロナウイルスを理由にして行事を中止にするのではなく、知恵を絞って全ての行事を実施できたことは成果である。生徒は実際に体験をすることが大切である。体験を通して成長し、人間性が育っていく。



成功しても失敗しても今後の体験をいきいきと喜べる生徒になるという期待をもつことができる。

- ②学校のきまり（校則）を緩和するとともに、生徒自身も一緒にきまりについて考えていくことは、重要である。これからは生徒たちが自ら考え行動していくという力を育てていってほしい。
- ③学校ホームページの学校日誌に258件の記事が掲載されていた。コロナの影響により、保護者や地域の方が自由に見られない状況なので、多くの人に見ていただきたい。

## (2) 課題

- ①今後のマスク対応について、花粉症や恥ずかしい思いなどで、外すことができない生徒もいると考えられる。ご配慮いただきたい。
- ②家庭学習については、家庭でどう指導すれば良いかわからない保護者もいる。学校に頼りすぎることもできないが、対応方法について一緒に考えていただければありがたい。
- ③学校が不登校生徒にどのように対応しているのか、わかっていない保護者が多い。そのため不安に思う保護者も出ている。周知する必要があると考える。

## (3) 改善策

- ①今後のマスク対応については外すことを強要はしない。国・都・区の方針を受けて段階的に進めていく。様々な状況の生徒を想定し、丁寧に進めていく。
- ②家庭学習について、保護者会や三者面談でも積極的に発信していくとともに、保護者が相談しやすい関係づくりを大切にしていく。また、相談機関の紹介などを積極的に進めていく。
- ③不登校対応については、保護者全体に話すことが難しい内容（個人情報に関わる事項）もあるため、積極的な発信は難しい。しかし、学校としてどのような組織的な対応を行っているかについては説明を行っている。

本年度も学校教育活動に多大なるご支援をいただきありがとうございました。

生徒・保護者・教職員・評議員の皆様からの様々な意見を分析し、令和4年度の自己評価を作成いたしました。すべての行事を実施することができ、生徒の意欲の高まり、心身の成長、学力の向上を感じることができた一年間でした。またアンケート結果より、学校での教育活動を保護者に理解していただくための取組を推進する必要性を感じました。本年度の課題を学校全体で共有し、組織的に改善をすすめてまいります。

次年度も、保護者・地域・感謝の皆様の一層のご支援ご協力をお願いします。

【問い合わせ先】

練馬区立南が丘中学校

副校長 神藤 陽平

03-3904-5782